



# 仏教における休息 =課題と可能性=

仏教においては、僧侶や民衆に提供された沐浴や喫茶など身体的精神的な休息につながる様々な実践がなされてきました。本大会では、仏教に端を発する「休息」の実践に焦点を当て、コロナ禍やそれ以降の仏教社会福祉実践における「休息」の意味を共に考えてみたいと思います。

大会長 龍谷大学社会学部 教授 長上 深雪

2021(令和3)年10月2日(土)・3日(日)

参加費無料(総会は会員のみ参加可能) 学生・一般参加歓迎

龍谷大学 深草キャンパス (京都市伏見区深草塚本町67)

【開催方法】対面(会場)及びオンラインを予定(コロナの状況によってはオンライン開催のみとなります)

## 10月2日(土)

### 11:00~ 物故者追悼法要

(於:顕真館)

#### 導師

龍谷大学社会学部 准教授  
井上 見淳

### 12:00~ ランチタイム・ミュージック

(於:成就館)

ネパールからオンラインでライブ放映

浄土真宗本願寺派 ネパール開教地 カトマンズ本願寺 僧侶  
モクタン・ママタ (Mamta Lama)

### 13:00~ 開会式

(於:成就館)

#### 挨拶

龍谷大学 学長  
入澤 崇

### 13:10~ 基調講演

### 銭湯のある暮らし

#### 演者

『旅先銭湯』編集発行人・一般社団法人島風呂隊 代表理事  
松本 康治 (さいろ社代表)

### 14:00~ シンポジウム

### 仏教社会福祉実践における 「休息」の意味

(於:成就館)

#### シンポジスト

真宗大谷派玉龍寺 住職

五百井正浩 (真宗大谷派ボランティア委員会委員長)

東大寺福祉事業団 理事長

富和 清隆 (東大寺福祉療育病院院長、奈良親子レスパイトハウス代表)

愛知東邦大学人間健康学部 教授

藤沢真理子

#### コメンテーター

神戸女子大学健康福祉学部 教授

小笠原慶彰 (会員)

#### コーディネーター

龍谷大学社会学部 教授

栗田 修司 (会員)

### 17:00~ 総会

(於:成就館) 会員のみ参加可

### 18:00~ 自由参加形式オンライン情報交換会

対面(会場)参加者の参加方法未定

## 10月3日(日)

### 9:30~ 分科会 自由研究発表

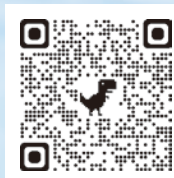
(於:成就館)

(以上の開催時刻については変更となる場合があります)

大会に関する問い合わせは、実行委員長・龍谷大学社会学部 栗田修司 skurita@soc.ryukoku.ac.jp

大会の申し込みは、右のURLまたはQRコードから<https://forms.gle/96KxokMt8ZhphjDz7>

締切:9月15日(水)まで



## モクタン・ママタ (Mamta Lama)



浄土真宗本願寺派パール開教地カトマンズ本願寺僧侶。

私は、カトマンズから離れたネパール東部の山村で、チベット仏教徒の家庭の第一子として生まれました。私は村の近くの中学校を卒業した後、お父さんがカトマンズの高校に行かせてくれるようになりました。色んなご縁があって、カトマンズ本願寺に下宿させていただけるようになり、高校、大学に通うことができました。カトマンズ本願寺の仏教講座に参加して、初めて浄土真宗にであいました。それは、正信偈のお勤めを練習する講座でした。日本語の発音で正信偈をあげ、「なむあみだぶつ」と念仏を称えるご縁でした。歌う事は小さい時から好きでしたから、仏教讃歌が大好きになりました。時間がある時に歌ったり、門徒さんに教えたりしています。

**【動画】**「ひかりあふれて」「真宗宗歌」「旅ゆくしんらん」「しんらんさま」がYouTubeに公開中。



## 松本 康治



さいろ社（出版社）代表、一般社団法人鳥風呂隊代表理事。

旅と、山歩き後の銭湯と、湯上りのビールを愛する。そして昔ながらの銭湯を日本に残すための応援活動をいろいろと画策・実行中。

**【著作】**『旅先銭湯』シリーズ①～④、さいろ社、2018年～2020年。『レトロ銭湯へようこそ関西版』戎光祥出版、2015年。『レトロ銭湯へようこそ西日本版』戎光祥出版、2017年。『ぼくが父であるために』春秋社、2001年。『看護婦（ナース）の世界』（共著）宝島社、1999年。『ニッポン銭湯風土記』（『朝日新聞デジタルマガジン & TRAVEL』 <https://www.asahi.com/and/serialstory/fudoki/> で連載中）など。



## 五百井正浩



真宗大谷派玉龍寺住職、真宗大谷派ボランティア委員会委員長、真宗大谷派兵庫県南部地震現地救援連絡拠点「ネットワーク朋」代表。

阪神淡路大震災において寺院を避難所として提供した。現在も、全国で災害救援について講演している。

**【著作】**『いのちをまもる智恵—減災に挑む30の風景—』05(21)特定非営利活動法人レスキューストックヤード、2007年。『災害と向き合う宗教—兵庫県南部大地震から12年、そしてこれから…』日本基督教団兵庫教区被災者生活支援・長田センター、2008年。『災害復興とは人間復興—教法からの呼びかけと被災—』『教化研究』第165号、真宗大谷派教学研究所、2020年。『ご門徒さんと考える<寺院>のための災害対策ハンドブック』真宗大谷派（東本願寺）宗務所組織部（編集）、2020年。別冊『コロナ禍におけるお寺への避難について』真宗大谷派（東本願寺）宗務所組織部（編集）、2020年など。

## 富和 清隆



東大寺福祉事業団理事長、東大寺福祉療育病院（障害福祉医療事業）院長、奈良親子レスパイトハウス（在宅障害児家族支援活動）代表。

難病や重度の障害をもつ子どもとその家族の休息の場所として、奈良親子レスパイトハウスを東大寺境内に設立し、代表および医師として関わる。

**【著作】**『親子として在ること 古くて新しい問い』『近畿新生児研究会会誌』24号、2016年。『奈良親子レスパイトハウス』『ホスピス・緩和ケア白書2017』青海社、2017年。『出生前診断 受ける受けない誰が決める？—遺伝相談の歴史に学ぶ』（共著）生活書院、2017年など。

## 藤沢真理子



愛知東邦大学人間健康学部人間健康学科教授、博士（社会福祉学）、愛知東邦大学地域・産学連携センター副センター長。学生時代から四国遍路とキリスト教における巡礼との比較研究を行ってきた。四国遍路における巡礼接待についても詳しい。専門分野は「地域福祉」。現在、防災と福祉を研究。地域の防災訓練や動画による防災啓発に貢献。

**【著作】**『風の祈り～四国遍路とボランティア～』創風社出版、1997年。「巡礼接待思想ホスピタリティを生かしたホスピスボランティア」（博士論文）大阪府立大学、2003年。「ボランティアの互酬性」『日本地域福祉』第12巻、1999年。「防災福祉コミュニティと避難行動要支援者支援」『東邦学誌』46(2)、2017年など。

## 小笠原慶彰



神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科教授、博士（人間福祉）。

日本仏教社会福祉学会では、『日本仏教社会福祉学会年報』の編集担当理事を1期務めた。浄土真宗本願寺派信徒で、法名は積正眞。シンポジスト3名は民間活力としての仏教福祉活動に関連する点で共通するが、小笠原氏は、まさに民間活力の歴史に詳しい。

**【著作】**『林市藏の研究—方面委員制度との関わりを中心として』関学出版会、2013年。「セツルメント光徳寺善隣館の再評価—佐伯祐正の人間関係を中心として」『日本仏教社会福祉学会年報』2008年。「地域寺院福祉活動の現状と可能性—本願寺派教団単位地域ブロック委員の意識調査を踏まえて」（共著）『日本仏教社会福祉学会年報』2000年など。